

PARNASSIUS

No. 27

目 次

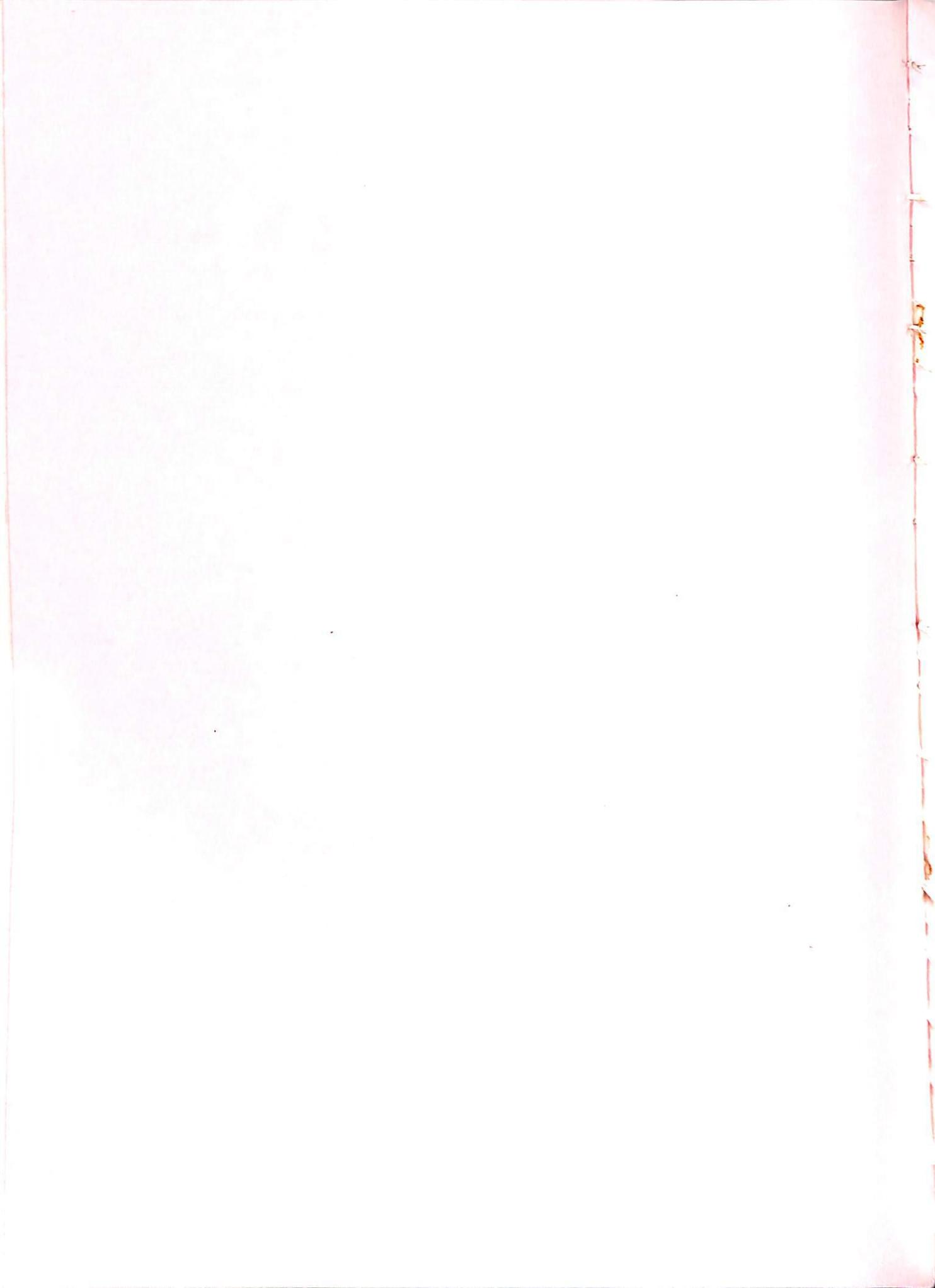
兵庫県のマメゾウムシ.....	高橋 寿郎	1
ベニシジミの冬季の活動記録.....	堀田 久	6
三熊山蛾類採集記録 [I].....	西岡 公明	7
ウラナミアカシジミの朝の活動例.....	堀田 久	9
兵庫県産 <i>Lethaeus</i> 属ナガカメムシ3種の分布について.....	高橋 寿郎	10
淡路島の蝶の変遷.....	堀田 久	13
諭鶴羽山でトゲヒゲヒメカミキリを採集.....	田中 稔	14
淡路島に於けるゴホンダイコクコガネの新産地.....	登日 邦明	15

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI

HYOGO JAPAN

January 1983



兵庫県のマメゾウムシ

(兵庫県甲虫相資料. 118)

高 橋 寿 郎

マメゾウムシ科 (Bruchidae) は豆科植物の種子を食として農林業上に重要な害虫として知られているものを割合ふくむ小形のグループであるが自然界での採集は比較的やりにくいのか県下における産出記録も大変少い。最近イロハモミジの花から従来県下ではほとんど記録のなかったチャバラマメゾウムシが多数得られたのでこの際このグループの県下に於ける分布状況に就いて現在わかっている範囲でまとめておいた方が良くと考えここに報告することにした。非常に材料が少ないので今後大いに調査する必要があるかと思われる (例えば神戸港などで輸入植物について入って来てその場で採られたり、そのまま密入国したりする種があると思われるがこの様な点は吾々アマチュアでは情報が把握し難いので全く手づかずになったままである。例として神戸植物防疫所で発見されたマメゾウムシとしてブラジルマメゾウムシ^{*}、エンドウゾウムシ、ソラマメゾウ、インゲンマメゾウムシ^{*}、アズキゾウムシ、ヨツモンマメゾウムシ、モモトマメゾウムシ^{*}が挙げられている。*印日本に分布しない種。梅谷、インセクトリユム、18巻、1号、1981)。

この類の分類には中條道夫博士による名著“日本動物分類、豆象虫科。(1937)があり、その後原色昆虫大図鑑に中根猛彦博士が解説を試みられたものがある(1963)。同定に就いてはこの二書によったが筆者の浅学のため誤りがあるかも知れない。その点御教示御叱正を得られるならば幸いである。

また桐谷圭治博士による“マメゾウムシ科生態と害虫化 (I, II)、新昆虫、9巻、5号、P. 2-7、9巻、6号、P. 7-11、1956。なる論文はこのグループの生態に関して大変得る所が大きく、さらに梅谷献二博士が“マメゾウムシの生物学。”と題するシリーズでインセクトリユム18巻、1号~11号、1981に発表になられている論文は色々の角度からのマメゾウムシに関する検討を加えられた、これまた欠くことの出来ない貴重な論文である。

Family Bruchidae マメゾウムシ科

1. *Bruchus pisorum* (Linné, 1758) エンドウゾウムシ

Linné氏により Europe産で *Dermestes* 属として記載された (Syst. Nat. X. P. 356, 1758)。日本からは Sharp氏により “Yokohama. One. example.”

Bruchus pisi Linné として記録されている (Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII, 97, P. 34, 1886)。エンドウの大害虫であり広く全世界に分布する種として知られており明治年間の侵入害虫と云われている。県下での記録も広くあるが多くいると云うような具体的な報告は今の所無いようである。桐谷博士によると未熟豆でしか育ちえないのでその地方の気候条件(特に冬季)が生存を許しても寄生植物の栽培が行われていなければ分布定着できないとされておられる。また越冬はじめでは脂肪体の量は乾燥重量の35%に当るが越冬期間中に徐々に減少し5月終りには22%になりこの時期にこの虫の豆畑での個体数が最大になるとされ、交尾は成虫が数日間摂食した後におこる。従って産卵は豆の花上に成虫が現われてから4日以上たたないとおこらないとされている。本種は一つの豆に一頭しか育たないとも記しておられる。

産地：津名郡五色町下塚〔堀田, 1978〕* 川西市笹部〔仲田, 1978〕。宍粟郡音水 (1 ex., 11-VI-1972, 1 ex., 24-VI-1973)。多紀郡〔鈴木, 1961〕。水上郡〔山本, 1958〕。城崎郡日高町日置〔高橋, 1975〕。

2. *Bruchus rufimanus* Boheman, 1833 ソラメゾウムシ

Egypt産で記載された種のものである (in Schönherr, Gen. Curcul., P. 58, 1833)。

大正15年(1926)に熊本県下のソラメ畑で発見されたのが日本では最初の記録で、たちまち南日本一円に広がり、大きな害を与えた。おそらく大正10年(1921)ころにアメリカまたはイギリスから侵入したものと考えられるとのこと(梅谷, 1981)。

休眠して越冬した成虫は3月下旬頃から活動をはじめ、花粉や花蜜を食べながらインゲンにサヤが出来るのを待ち、サヤが3cm位になるとその表面に1個づつばらばらに産卵する。産卵の時期は西日本では4月上旬~5月中旬。卵は10日ほどで孵化し卵から外に出ることなく卵の下側からすぐサヤを通して小さい豆の中に小部屋を作り、表皮の内側に羽化するときの出口用に丸く切れ込みをつけて蛹になる。成虫は7月下旬から10月初めに羽化してくるといのがこの虫の生活史の概略である。

ソラメの害虫として良く知られその分布は中・南部ヨーロッパ、西部アジア、アメリカ、アフリカ等ほとんど全世界で日本では本州、四国、九州とか隣の朝鮮にいるが案外県下での記録が余りない。恐らくもっと広く分布しているのではないかと思われ注意が足りないのだろうと思っている。図説は中條(1937, 1950)、中根(1963)両博士のものがある。

*産地で〔 〕の中のものゝ記録からの引用。()のものは筆者採集標本所有のもの。

産地：川西市大和〔仲田，1978〕，多紀郡〔鈴木，1961〕，氷上郡〔山本，1958〕，
豊岡市愛宕山〔高橋，1975〕，養父郡氷の山（1 ex.，27-VII-1956）。

3. *Sulcatobruchius sauteri* (Pic, 1927) ザウテルマメゾウムシ

Pic氏によって台湾，港口産で *Bruchus* 属で記載された種である (Ent. Mitteil.,
XVI, 4, P. 248, 1927)。

台湾特産種としてされていたが現在は本州，四国にも分布していることがわかっているよう
である。本州からの一番初めての記録はどれなのか一寸わからないが1962年穂積俊文氏が三
重県湯ノ山温泉のカエデの花から多数採集したと報告しておられ (昆虫学評論, XV: 16,
1962)，また栗の花でも得られていると記録された (月刊むし, 7: 32, 1971)。

県下での記録は鳥羽で採集した1頭があるのみだがどの様に採集したか筆者の不注意で記録
が残っていないのでわからない。

図説は中條 (1937)，中根 (1963) 両博士のものがある。

産地：多可郡鳥羽 (1 ex.，1-VI-1975)。

4. *Callosobruchus ademptus* (Sharp, 1886) チャバラマメゾウムシ

Sharp氏が "One example was found at Yuyama, May 10,
1881, and a second, in which the variegation of the
upper surface is much less conspicuous, at Nagasaki."
として *Bruchus* 属で記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII, 97,
P. 36, 1886)。

中條博士は日本動物分類，豆象虫科の中で神戸産の標本 (データ無し) で図説しておられそれ
以後あまり採集されなかったが1980年カエデの花を網ですくうと多数が入って来た。今の
所神戸市内と家島だけで知られているがもっと分布は広いのではないだろうか。

産地：神戸〔中條，1937〕，山の街 (1 ex.，7-VI-1959)，島原 (1 ex.，3-V-
1979, 1 ex.，18-V-1979, 3 exs.，18-IV-1980, 3 exs.，19-IV-1980,
10 exs.，21-IV-1980, 8 exs.，22-IV-1980, 2 exs.，23-IV-1980,
3 exs.，24-IV-1980, 6 exs.，26-IV-1980, 1 ex.，27-IV-1980,
23 exs.，1-V-1980, 2 exs.，3-V-1980, 5 exs.，4-V-1980, 1 ex.，
7-V-1980, 1 ex.，12-V-1980, 2 exs.，14-V-1980, 2 exs.，17-
V-1980, 1 ex.，19-V-1980, 1 ex.，27-V-1980, 1 ex.，12-VIII-1980,
1 ex.，26-VIII-1980, 2 exs.，14-V-1981)。飾磨郡家島 (1 ex.，26-V-

1978).

5. *Callosobruchus chinensis* (Linne, 1875) アズキマメゾウムシ

支那から *Curculio* 属で記載された種であるが (Syst. Nat. X, P. 386, 1857), 日本からの記録は Motschulsky 氏が *Bruchus adustus* として記載された種がこの種に当る (Bull. Soc. Nat. Hist. Moscou, XLVI. P. 228, 1873). Harold 氏が Japan から *Mylabris* 属で記録されている (Deutsche Ent. Zeitschr., XXII, 1, P. 86, 1878).

分布は本州, 四国, 九州, 琉球, 朝鮮, 台湾, 支那から温熱帯地域に広く分布してアズキの大害虫として有名である。

野外でのアズキやササゲの畑にも豆が完熟後に飛来して産卵することがあるが畑の害虫として問題になることはなく, この虫は屋内型のマメゾウムシで貯蔵豆に飛来して産卵した時ネズミ算的に増加して大量の豆を駄目にする。従って日本では貯蔵アズキやササゲの最大の害虫となっている。その関係からか自然界での採集はそれ程出来なく記録も思った程多くない。恐らく県下にも広く分布している種と考えられる。

産地: 三原郡福良〔久松, 1973〕, 川西市見野, 笹部〔仲田, 1978〕, 神戸市二十渉 (3 exs., 8-IX-1957), 鳥原 (1♀, 7-VIII-1982), 多紀郡〔鈴木, 1961〕, 氷上郡〔山本, 1958〕, 城崎郡円山川堤〔高橋, 1975〕, 美方郡扇の山〔辻, 岸田, 1972〕。

6. *Bruchidius comptus* (Sharp, 1886) シロモンマメゾウムシ

Sharp 氏により *Bruchus* 属で "Kobe, June 8, 1881; Hosokute, July 22, 1881. Three examples." の標本で記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII: 97, P. 36-37, 1886).

中條博士によって G. Lewis 氏採集の本州上市産の図説がある (1937).

大変小さい種 (体長, 1.4~1.5 mm.) で県下からは Sharp 氏の記録以後全く知られていない。

産地: Kobe〔Sharp, 1886〕。

7. *Bruchidius dorsalis* (Fahraeus, 1839) サイカチマメゾウムシ

Fahraeus 氏により印度ベンガル地方産で *Bruchus* 属で記載された種である (in Schönherr, Gen. Curcul. V, P. 98, 1839).

日本からは G. Lewis 氏採集の新潟産を Roelofs 氏が *Bruchus* 属の種として記録されたものである (Ann. Soc. Ent. Belgique, XXIV, P. 30, 1880).

分布は本州, 九州, 台湾, 満州, 支那, 印度等であり, サイカチの実につく種でこの仲間としては体の大きい (体長 5.5 mm 内外) 種である. 図説は中條 (1937, 1950), 中根 (1963) 両博士のものがある.

県下での記録がほとんどない. よく調べて見なくてはならないと考える.

産地: 神戸市山の街 (1 ex., 31-VI-1959).

8. *Bruchidius japonicus* (Harold, 1878) サムライマメゾウムシ

Harold 氏により Hiller, Reinhold 氏が萩で採集されたもので *Mylabrius* 属として記載された種である (Deut. Ent. Zeit., XII, 1, P. 87, 1878).

日本固有種とのことであるが (分布は北海道, 本州, 四国, 九州), 加害植物など生態に就いて良くわからないようである. 体は小さい (体長 2.5 mm 内外) が割合はっきりした上翅上に斑紋を有している. 図説は中條 (1937, 1950), 中根 (1963) 両博士のものがある. 県下でも記録がほとんどない種である.

産地: 宍粟郡波賀町音水 (1 ex., 15-VII-1973).

9. *Bruchidus terreus* (Sharp, 1886) ネムノキマメゾウムシ

Sharp 氏により *Bruchus* 属で "Yokohama, Nagasaki, Ichiuchi, and Yuyama. Five examples." の産地で記載された種である (I. C., P. 35, 1886).

本種も日本固有種とのことで本州, 九州に分布していると云われている. 中條博士は神戸税関でネムノキの種子から発見された3頭 (種子は松本市の産であり, 暫く京都の種苗店で貯蔵されていたもの) を検したことを記録されると共に図説をされている (1937). 中根博士の図説もある (1963).

ネムノキとニセアカシアの実につくと云われているが筆者は該当種未採集である.

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978].

10. *Bruchidius urbanus* (Sharp, 1886) シリアカマメゾウムシ

Sharp 氏により *Bruchus* 属で "Nagasaki. Two specimens of the typical form and one of the variety." (G. Lewis 氏採集品) の標本で記載された (I. C., P. 35-36, 1886).

日本固有種と云われていて本州, 九州に分布している. ニセアカシアから得られるとあり,

穂積俊文氏は谷汲、閨菟溪谷のカエデの花から採集出来たことを報告しておられる（月刊むし、7:32, 1971）。やや大きい（体長3.5mm内外）種であるが県下では両端からの記録があるのみであるがもっと産地は他にもあると考えられる。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕。相生市三濃山（1ex., 3-V-1969, 1ex., 20-V-1973, 1ex., 6-V-1973）。

11. *Kytorhinus sharpianus* Bridwell, 1932 シャープマメゾウムシ

Sharp氏がG. Lewis氏採集になる神戸産1♂（Kobe, June 8, 1881; a single male example.）で新属新種として*Pygobruchus scutellaris*と命名記載された種である（Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XVII, 97, P. 38, 1886）。その後J. C. Bridwell氏により*Kytorhinus*属に移された。ところが*Kytorhinus*属には*K. scutellaris* Motschulskyなる種があったのでこの種に*K. sharpianus*なる名を与えられたのである（Proc. Ent. Soc. Washigton, XXXIV, P. 106, 1932）。

日本固有種で中條博士は青森県産1♂, 岩手県産1♀を検されると共に図説をしておられる（1937, 1950）。

県下では氷上郡で記録があるが筆者は未採集である。

産地：Kobe〔Sharp, 1886〕。氷上郡篠ヶ峯〔山本, 高橋, 1962〕。

以上兵庫県産のマメゾウムシ11種を記録した。現在の日本産のマメゾウムシ類は23種位（中根, 1972）であるから半数をも記録出来ていないわけである。調査が不充分であることを痛感する。大方同好者の御教示御叱正を頂ければ幸である。

（Ⅷ - 1982）

ベニシジミの冬季の活動記録

最近の暖冬異変は、蝶の生活にも大きな影響を与えているようである。成虫で越冬する蝶が暖かい日に活動することはよくあるが、筆者は下記のようにベニシジミの冬季における活動を観察しているので報告しておく。

1. 観察場所 洲本市安乎町北谷
2. 観察年月日 ア, 1981年12月28日（数頭） イ, 1983年1月3日（1♂）

なお、1983年1月3日に観察した個体は新鮮な♂で、オニノゲシの花に飛来して約10分間吸蜜していた。

（堀田 久）

三熊山蛾類採集記録 [I]*

西岡 公明

淡路島の蛾類についての資料は、これまでに多くの方々により採集、報告されているが、洲本市内の名勝である国立公園三熊山の蛾類についての資料は極めて小数であるにすぎない。

そこで筆者は、柳学園高校在学中同校生物部に所属していた関係もあり調査を実施した。その第一報として1981年5～10月に採集した結果を報告しておく。

尚、筆者は、昨年4月より大学入学により帰省時にしか採集活動はできないが、できる限り多くの資料を報告したいと思っている。

本稿起草にあたっては常々御指導を頂いている柳学園高校生物部顧問である登日邦明先生に深く感謝いたします。

尚、本報で記録した標本については柳学園高校生物準備室に所蔵している。

Sphingidae スズメガ科

1. *Theretra oldenlandiae* Fabricius セスジスズメ
Mt. Mikuma, 1 ex., 6. VI. 1981, 1 ex., 2. VII. 1981

Amatidae カノコガ科

2. *Amata fortunei* De l'Orza カノコガ
Mt. Mikuma, 1 ex., 28. VIII. 1981

Arctiidae ヒトリガ科

3. *Miltochrista aberrans* Butler ハガタベニコケガ
Mt. Mikuma, 1 ex., 7. VI. 1981
4. *Miltochrista striata* Bremer et Grey スジベニコケガ
Mt. Mikuma, 1 ex., 10. VI. 1981
5. *Spilarctia obliquizonata* Miyake フトスジモンヒトリ
Mt. Mikuma, 1♀, 20. IX. 1981
6. *Spilarctia inaequalis inaequalis* Butler, カクモンヒトリ

* Nishioka, K; The Moths of Mt. Mikuma [I]

Mt. Mikuma, 1♂, 7. IX. 1981

Agaristidae トラガ科

7. *Seudyra subflava* Moore トビイロトラガ
Mt. Mikuma, 1ex., 9. V. 1981

Noctuide ヤガ科

8. *Trichosea champa* Moore キバラケンモン
Mt. Mikuma, 1♀, 19. XII. 1981
9. *Agrotis fucosa* Butler カブラヤガ
Mt. Mikuma, 1♀, 6. VI. 1981
10. *Mocis ancilla* Warren ニセウンモンクチバ
Mt. Mikuma, 1ex., 1. VI. 1981
11. *Pangrapta obscurata* Butler リンゴツマキリアツバ
Mt. Mikuma, 1ex., 20. VI. 1981

Notodontidae シャチホコガ科

12. *Fentonia ocypte* Bremer ホソバシャチホコ
Mt. Mikuma, 1♀, 6. VI. 1981
13. *Rosama ornata* Oberthür トビギンボンシャチホコ
Mt. Mikuma, 1ex., 10. VI. 1981

Lymantriidae ドクガ科

14. *Ivela auripes* Butler キアシドクガ
Mt. Mikuma, 3exs., 10. VI. 1981
15. *Euproctis similis* Fuessly モンシロドクガ
Mt. Mikuma, 1ex., 6. VI. 1981

Lasiocampidae カレハガ科

16. *Malacosoma neustria* Linné オビカレハ
Mt. Mikuma, 2♂, 10. VI. 1981, 1♀, 6. VI. 1981, 1♀, 19. VIII. 1981,
1♀, 20. VIII. 1981

17. *Philudoria albomaculata* Bremer タケカレハ

Mt. Mikuma, 1♀, 15. VI. 1981

18. *Dendrolimus superans* Butler ツガカレハ

Mt. Mikuma, 1♂, 12. VII. 1981

Thyatiridae トガリバガ科

19. *Saronaga japonica* Okano マエベニトガリバ

Mt. Mikuma, 1ex., 10. VI. 1981

Geometridae シャクガ科

20. *Geometra valida* C. et. R. Felder クロスジアオシャク

Mt. Mikuma, 1ex., 2. VII. 1981

21. *Callygris compositata* Guenée ナミガタシロナミシャク

Mt. Mikuma, 1ex., 6. IX. 1981

22. *Calospilos miranda* Butler ユウマダラエダシャク

Mt. Mikuma, 1ex., 6. IX. 1981

23. *Auaxa cesadaria sulphurea* Butler キエダシャク

Mt. Mikuma, 1ex., 6. IX. 1981

24. *Ourapteryx nivea* Butler ウスキツバメエダシャク

Mt. Mikuma, 1ex., 30. VI. 12. VII. 1981

25. *Ourapteryx obtusicauda* Warren コガタツバメエダシャク

Mt. Mikuma, 1ex., 15. VI. 1981, 1ex., 2. VII. 1981

ウラナミアカシジミの朝の活動例

ゼフィルスの仲間が夕方盛んに活動することはよく知られているが、平地性のミドリシジミ類の朝の活動についてはあまり知られていないとのことである。

保育社発行の「原色日本昆虫生態図鑑 チョウ編」によると、本種は早朝6時頃に弱い活動が見られるとあるが、筆者は洲本市安乎町で本種が朝方に活動するのを何度か見ている。

1982年6月20日の午前8時頃にも、朝日を受けて約50mほどの距離を飛翔する本種を2頭確認している。

(堀田 久)

兵庫県産 *Lethaeus* 属ナガカメムシ 3種の分布について

高橋 寿郎

チャイロナガカメムシ属 *Lethaeus* はナガカメムシ亜科 *Aphaninae* のチャイロナガカメムシ族 *Lethaeini* の一属で筆者の知見では日本から現在6種が知られ、本州に産するのはその内4種である。兵庫県下には3種が分布している。そのうちで2種は大変多くいる種である。他の本州産1種も箕面原産だけに県下にも分布しているのではないかと調べているのだが今の所見つかっていない。

最近若干の生態状況もわかって来たので此処に分布を中心に県下の現況を報告しておきたい。

尚この属に就いては宮武睦夫氏、日高輝展氏の夫々詳しい分類学的報文がある（あげは、*№* 6, P. 10-15, Fig. 1-5, 1958., *Mushi*, Vol. 36, *№* 6:77-83, Fig. 1-7, 1962）。

兵庫県産3種の識別は上記報文に詳しいので形態に関する記述は一切省略させて頂いた。

○ *Lethaeua lewisi* Distant, 1883 フタモンチャイロナガカメムシ
本種は G. Lewis 氏の長崎の採集品によって記載されたものである（*Trans. Ent. Soc. London*, 4:440, pl. 20, f. 7, 1883）。

分布は本州、四国、九州、奄美大島、琉球となっていて海外では台湾、印度が知られている。本州では南岸線以南にだけ分布するどちらかと云えば南方系の種のようにあり県下の産も淡路島に記録があるだけである。

北隆館の日本昆虫図鑑（改定版，1950），P. 229, f. 589 に本種として図示されているのは次の *L. dallasi* Scott のことであるとのこと。

兵庫県の氷上郡の記録〔山本，1954，1958〕があるがこの北隆館の図鑑にて同定されたのであろうと思われ（分布からして）*L. dallasi* と考えられる。分布しているとすれば瀬戸内に面した海岸線近くの地域にいそうに思われる。

産地：三原郡福良〔宮武，1973〕* 氷上郡〔山本，1954，1958〕〔？〕。

○ *Lethaeus dallasi* Scott, 1874 チャイロナガカメムシ
本種は G. Lewis 氏の採集品に基いて Scott 氏が記載したものである（*Ann. Mag.*

*産地のところで〔 〕の中のものゝ文献からの引用，（ ）の中のものゝ筆者所有標本である。

Nat. Hist. (4) 14: 438-439, 1874). 産地は明記されていない。本種は北海道、本州、四国、九州、琉球と広く分布し、宮武氏は朝鮮にも産すると記しておられる。県下でも大変広く分布し、また普通に採集出来る種である。神戸市内では8月下旬から9月上旬に最も多く見られる。日高氏は食草としてヤシヤブシ、ヒサカキ、ハマヒサカキを挙げておられる。神戸の鳥原ではクサギ、ミズキから採集される場合が多い。運動はかなり活発で網に入っても忙しく動きまわり飛び立とうとする。つかまえるのに慣れが必要である。

宮武氏によると松山市付近で度々灯火に飛来するとのことであるが神戸付近ではそのような経験はない。但し加西市畑のものは中国縦貫道路ぞいのレストランの電燈に飛来したものである。

本種は前に書いたように江崎博士が日本昆虫図鑑に *L. lewisi* Distant として図説しておられる他、宮武氏の図説(1958)、日高氏による原色の図説(1965)がそれぞれある。

産地：津名郡東浦町野田〔川沢, 1974〕。洲本市山武牧場〔堀田, 1978〕。川西市見野、大和〔仲田, 1978〕。能勢妙見山(1♀, 30-VII-1982)。神戸市鳥原(1♀, 20-VII-1963, 1♂, 7-VII-1968, 1♀, 17-VIII-1969, 1♀, 20-IX-1973, 1♀, 10-VIII-1974, 1♀, 13-VI-1982, 1♀, 21-VI-1982, 1♂, 1-VII-1982, 1♂, 11-VIII-1982, 1♂, 5-VIII-1982, 2♀, 23-VIII-1982, 4♀, 30-VIII-1982, 1♂, 2♀, 1-IX-1982, 1♀, 2-IX-1982, 1♂, 3-IX-1982)。下谷上(2♂, 2♀, 23-VIII-1979)。芦谷溪谷(1♂, 13-IX-1982)。加西市畑(3♂, 1♀, 29-VI-1974, 1♂, 1♀, 13-VII-1974)。赤穂市天和(1♂, 25-IX-1974, 1♀, 6-X-1974)。宍粟郡音水(1♀, 8-IX-1942)。

○ *Lethaeus assamensis* Distant, 1901 オオチャイロナガカメムシ

本種は印度アッサム地方(Naga, Hills)から記載された種である(Ann. Mag. Nat. Hist. (7) 8: 507, 1901)。同一著者によってFauna of British India, Rhynchota, Vol. IIに図説がある(余り図は良くない)(P. 87-88, f. 67, 1904)。

日本からの記録は大川氏の三重県下のものが正式には初めてになるのだろうか(ひらくら, 1957, 長谷川氏同定)。

本州北部、関東以西、四国、九州に分布しているとある。宮武氏は松山で6月下旬から9月にかけて灯火に飛来するがチャイロナガカメムシより出現が早く個体数も前種より少いと記録しておられる(1958)。

日高氏も本州での記録は伯耆大山と和歌山県の二ヶ所しか掲げられていない(1962)。

ところでこの種は兵庫県下からは今迄全く記録が無かった種であるが神戸市内鳥原に非常に多くいる。この地にこの位いるのだから恐らく他の県下の産地も多くあるのであろうと思うのだが今の所全く知られていない。いる場所は側溝で一方が崖(土並びに若干コンクリートで土止めをしてある)で反対側は道路になっている(舗装してある)。この道路の側溝にいるのであるが食草らしきものが近くに全く見当たらない。かなり注意しているのであるが何を食べているのかわからない。クズが多くあるがこの種の食草の報告は今の所知らない。側溝には落葉のたまっている所も割合ある。大変敏感で側溝にいるのを手でつかまえようと近づけるとかなり前に察知して逸早く逃げる。相当のスピードであるしなかには翅を出して飛び去るものもある。

出現期はデータで御覧のごとく8月が一番多くいるようで6月から見られ9月一杯でも野外で見られる。いずれの場合も単独の個体ばかり見られて集っているような状況のものを見ていない。

交尾状況その他も今の所見ていない。今後共観察を続けたいと考えている。

産地：神戸市鳥原(1♀, 27-VII-1969, 1♀, 24-IX-1973, 1♀, 27-VII-1974, 1♀, 20-VII-1975, 1♂, 1♀, 27-VII-1975, 1♀, 12-VI-1976, 1♂, 8-VIII-1976, 1♀, 15-IX-1977, 1♂, 1-VII-1978, 1♀, 2-IX-1978, 3♀♀, 3-IX-1978, 1♀, 22-VI-1979, 1♂, 22-VII-1980, 1♂, 5-VII-1982, 1♀, 11-VII-1982, 1♂, 1♀, 22-VII-1982, 1♀, 28-VII-1982, 3♂, 3♀, 5-VIII-1982, 1♂, 3♀, 8-VIII-1982, 1♀, 10-VIII-1982, 1♀, 12-VIII-1982, 1♂, 1♀, 23-VIII-1982, 2♂, 8♀, 24-VIII-1982, 4♀, 25-VIII-1982, 1♂, 4♀, 26-VIII-1982, 2♀, 30-VIII-1982, 2♀, 3-IX-1982)。

初めに一寸記したように本州産には他にもう1種が知られている。しかもそれは故江崎悌三博士が箕面で採集された1♀(18-VII-1915)の標本によって記載された *L.*

minoensis Hidaka (Mushi, Vol. 36, №6:80, Fig. 7, 1962)である。その後この種の記録を筆者は知らないが少なくとも兵庫県に接している地点での記録種なので兵庫県からも発見出来るのではないかと注意しているが、今の所まだ見つかっていない。

以上県下産3種の *Lethaeus* 属の分布に就いて報告させて頂いたが3種共県の中央部から北でほとんど産出の報告が無い。3種共南方系のナガカメムシの故なるのか或は充分の調査が出来ていないためか、どうも後者の意味のように思うのだが。

(XI-1982)

淡路島の蝶の変遷

堀 田 久

私は兄や姉の影響もあって、小学生の頃からよく虫取りをしたものであるが、初めて蝶の標本を作ったのは40年も前の中学2年生の夏のことであった。当時は夏休みの宿題に昆虫標本の作製があり、洲本市安乎町の自宅付近で、毎日のように蝶を追いかけたものである。その時の標本は殆ど無くしてしまったが、クロアゲハの1匹だけは今も完全な姿で残っている。

その年(1942年)の8月16日には、父や兄と先山へ行き、ジャコウアゲハやアオスジアゲハ・カラスアゲハ・ゴマダラチョウなどを採集したが、それまで図鑑で見ただけだったアサギマダラを先山の頂上付近でネットに入れた時の感激は今も忘れることができない。思えばこの時から蝶にとりつかれていたようであり、この年から淡路島の蝶達との付き合いが始まったと言えよう。

その後の数年間は太平洋戦争が次第にはげしくなり、採集は殆ど出来なかったが、1946年からは蝶類だけでなく他の昆虫類についても標本を作るようになった。この40年間には環境の変遷と共に減少して、その姿を殆ど見かけなくなったものもあれば、逆に次第に個体数を増している仲間もある。

ここには特に変遷の著しい蝶類数種を取り上げてみたが、これはあくまでも私の主観であり、場所によってはかなり事情も違っていることと思うので、同好諸賢の観察結果をお知らせいただければ幸いである。

1. モンキアゲハ

この蝶は南方系の種で次第に分布範囲を北へ広げている仲間の代表であるが、淡路島内でも1940年代に比較するとずいぶん個体数が多くなった。私が採集を始めた頃は、安乎町ではごくたまに見られるくらいであったが、今では島内の各地に多く、洲本市安乎町でも6月初旬にはサツキの花に、7月下旬にはオニユリの花に数多く集まり、乱舞する姿も見られる。平地よりも山地に多く、先山あたりではクロアゲハなどよりも個体数が多い。

2. ナガサキアゲハ

本種はよく知られている通り、1951年8月志筑明神のミカン畑で、小学生によって2頭の♀が採集されたのが淡路島における最初の記録である。私が淡路島でこの蝶を初めて手にしたのは、それから7年後の1958年7月27日のことである。それは洲本市安乎町の自宅横のミカン畑へ産卵のため飛来した♀であり、これが淡路島における2回目の採集記録である。

その後同地点で何度も本種を確認しているが、島内の他の地点における採集例も多くなり、分布地域も次第に広がっていった。特に1960年代の後半には毎年発生が見られ、春型もかなり採集されているところから、確実に土着したものと思われるようになった。

現在は島内の各地に多く見られ、特に洲本市の由良や上灘、南淡町の灘などに個体数が多い。しかし、まだ島内全部に土着しているわけではない。洲本市安乎町では年によって差が大きく、成虫・幼虫ともかなりの個体数が見られる年と全く見られない年とがあり、まだ土着はしていないようである。

3. ムラサキシジミ

1950年代には、先山をはじめ洲本市安乎町や中川原町・竹原などでよく見られ、ごく普通の種であったが、私はここ10年余り本種の姿を全く見かけていない。前川和昭氏が先山で最近採集されたということなので、絶滅はしていないが、個体数は極めて少なくなっている。

なお、津名郡や三原郡でも1965年以降の採集記録は見られないようである。

4. ウラギンスジヒョウモン

1950年代には洲本市安乎町の池の堤防で、6月頃本種がかなり見られたが、1960年以降は全く見られなくなった。今までのところ、島内では洲本市安乎町で記録されているだけである。

5. オオウラギンヒョウモン

本種も1950年代には洲本市安乎町でかなりの個体が得られ、当時新潟県の同好者との交換に使用したほどであったが、1960年以降は全く見られなくなった。なお、島内では三原郡賀集で1967年6年に1頭採集されているだけで他に記録はない。

6. ジャノメチョウ

本種は1950年代から洲本市安乎町や津名郡の山地で採集できたが、個体数はあまり多くなかった。最近洲本市安乎町では個体数が多く、7月中～下旬が最盛期である。また、採集例がなかった三原郡内でも、1978年になって緑町の倭文で記録されている。

(1982, 12, 30)

諭鶴羽山でトゲヒゲヒメカミキリを採集

1980年8月14日、南淡町諭鶴羽神社境内でブラックライトを使用してナイターをした所、トゲヒゲヒメカミキリ *Allotraeus rufescens* Pic を1♂1♀採集したので報告する。当夜は濃霧が発生して寒い位であったが、多数の大型のガとヒメハルゼミ2♀♀が飛来して楽しいナイターだった。

本種を同定していただきました田中勇氏に感謝したい。

(田中 稔)

